

遠隔医療の革命

- 西澤先生が基本原理を考案した光ファイバーによって高速通信が可能となり遠隔医療にも革命をもたらした。
- 汎用光通信サービス開始の約10年前となる1992年に、光ファイバーを使った遠隔病理診断のデモを東北電力の協力の元、東北大学病院と旧仙台市立病院間で行った。
- 1992年の病理学会総会でおこなわれた東北大学病院（仙台国際センター）－旧仙台市立病院によるデモンストレーションは我が国における高速通信による遠隔医療の実用の始まりとなった。



デモを視察する西澤潤一東北大学学長

旧仙台市立病院（五橋）

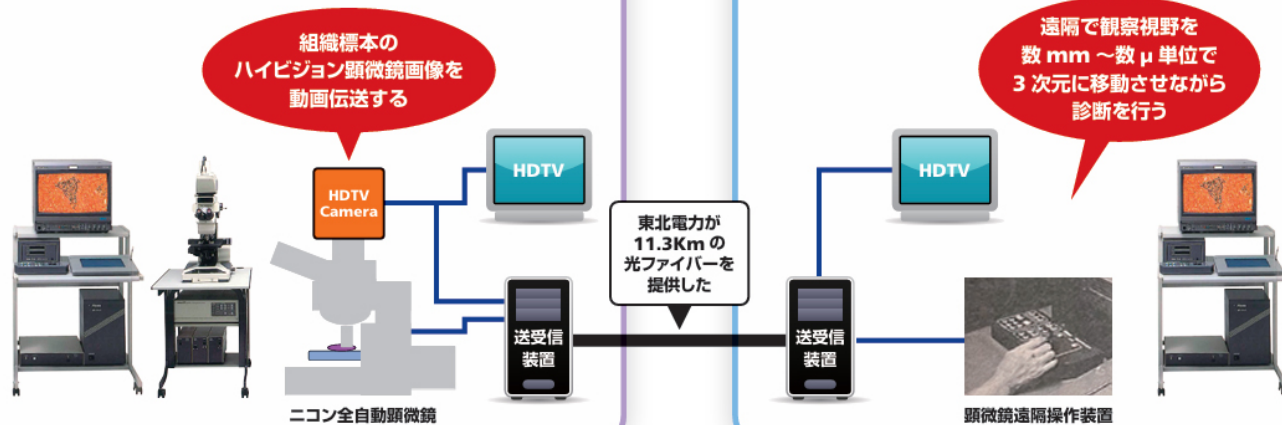


顕微鏡画像を送る仙台市立病院長沼部長

東北大学病院



受信画像を見ながら顕微鏡を遠隔操作し病理診断する東北大学病院澤井副部長



- 仙台国際センター（300 inch 大型スクリーン）と旧仙台市立病院間を東北電力が光ファイバーで接続
- ニコンが顕微鏡システムを提供
- 松下電器が伝送装置を提供
- 旧仙台市立病院の長沼副部長が標本画像を送信し、若狭教授（福島医大）が解説
- NHK はデモ状況を Hi-VISION で全国にリアルタイム放映実施